

## 説教ポイント

心に秘める生きた水

ヨハネ七・三七〜三九

イエスさまが歩まれたイスラエルは雨がとても少ない砂漠地方ですから、草木は生きていくのが大変です。行けども茶色い岩や砂ばかり。そんな中、時に一本だけぽつんと青々と葉を茂らせて生きている木に出会うことがあります。

アカシアの木。水がないので他の植物はまったくそだたない場所でも、その木だけはなぜか生きています。秘密は根っこにあるそうです。根の長さは、大地に立っている木の部分の十倍にも達します。その根っこが真つ直ぐ地中深く深く伸び、やがて地下水脈に到達する。そこから吸い上げられた新鮮なたくさんの水が木全体を豊かに潤し、葉を茂らせていくのです。

人間もアカシアのように生きている人がいます。周りからは、なんて大変な人生を送っているのだらうと思えるのに、なぜか背筋をすっと伸ばし、りんとして、微笑みをたやさず歩んでいる人がいる。ふしぎだなあ。その秘密はどこにあるんだろう？

心に「地下水脈」を秘めているのです。私たちにとつての「地下水脈」とは？ イエスさま。たとえ月曜から土曜まで荒れた砂漠のような中を歩んでいるとしても、日曜日がやってくる。その日には聖書を開き、主の言葉を聞き、豊かで新鮮ないのちの水をいただくことができる。日曜日が月曜から土曜までを生かしています。

「だれでも渴いている人は、私のところに来て飲みなさい。…その人の内から生きた水が川となつて流れ出るようになる」